

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

| 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)別所6丁目計画新築工事	階数	地上7F
建設地	さいたま市南区別所6丁目253-1、253-2、254-1、254-3、255-1、255-3	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	110 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年04月14日
敷地面積	1,190 m <sup>2</sup>	作成者	小副川 隆
建築面積	506 m <sup>2</sup>	確認日	2021年06月30日
延床面積	2,415 m <sup>2</sup>	確認者	品川典久・宗 孝則



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 89% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③ 上記+②以外の: 89%

④ 上記+: 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	2.5
温熱環境	2.8
光・視環境	3.1
空気質環境	3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

機能性	2.5
耐用性	2.9
対応性	2.8

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	3.0
自然エネ	2.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.2
汚染物質回避	3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮	3.4
地域環境への配慮	2.9
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能T-2以上。 居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	<b>Q2 サービス性能</b> 給水ポリエチレン管(C)、排水VP(B)、給湯ポリエチレン管(C)。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 特になし。
<b>LR1 エネルギー</b> [BEI][BEIm] = 0.79。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器など)などを用いている。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して89%。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)別所6丁目計画新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>		-	<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.0</b>	0.15	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.5</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.50	<b>3.8</b>	0.50	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2以上。				<b>5.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr-45。				-	-	<b>4.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.2</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>
2.1 室温制御						<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00	
1 室温						<b>3.0</b>	0.63	-	-	
2 外皮性能						<b>1.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.4</b>	0.25	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.1</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.43	<b>4.0</b>	0.30	
1 昼光率		住居:2.0% ≤ [昼光率]。				<b>1.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御						-	-	<b>3.0</b>	1.00	
3.3 照度						<b>3.0</b>	0.21	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	0.36	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.2</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.5</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全的に採用している。				<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気						<b>2.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。				-	-	<b>5.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						<b>1.0</b>	0.50	<b>1.0</b>	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	<b>3.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.9</b>	0.30	-	-	<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>2.9</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>2.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水ポリエチレン管(C)、排水VP(B)、給湯ポリエチレン管(C)。				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
3.1 空間のゆとり			-	-	<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	<b>2.0</b>	0.40	
3.2 荷重のゆとり			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.9</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
2 自然エネルギー利用			<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.79	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
4 効率的運用			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
1 水資源保護			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器など)などを用いている。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>3.2</b>	0.60	-	-	<b>3.2</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:CFシート貼。	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	LGSとGL工法を使用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して89%。	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
2 地域環境への配慮			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	